

シリーズ 「先生方にお伝えしたい：整形外科」

肩関節疾患

第3話(全3話)

第3話では、「五十肩」についてご案内いたします。

40～50代に多い五十肩は、肩の組織が老化した状態でスポーツ・労働など活動的な生活を送ることにより、肩への負担が大きくなって起こると考えられています。

発症後1～2年程度で痛みが軽減して動かしやすくなり、自然に治ることが多い病気です。しかし、一部は難治性となり、痛みが遷延しそのため眠れなくなる患者様もいらっしゃいます。そのような患者様に対する当院での治療方法をご紹介します。

整形外科部長 梶田 幸宏

十分な
保存療法に抵抗

超音波ガイド下腕神経叢
ブロックを用いた
非観血的関節授動術

効果不十分の場合は…

関節鏡視下関節包解離術



右記に該当する患者様は
手術を第一選択へ

- ・骨粗鬆症
- ・70歳以上の高齢者
- ・手術希望

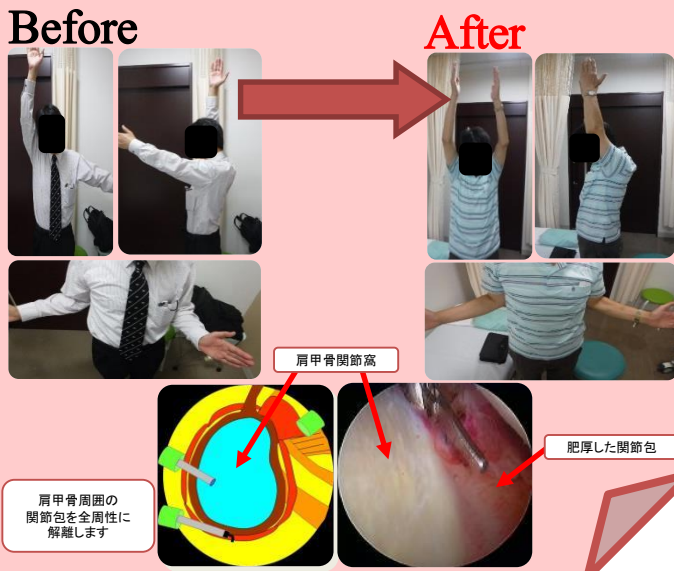
五十肩の多くは保存療法（注射療法・理学療法）で症状が改善しますが、保存療法に抵抗する場合は、超音波ガイド下腕神経叢ブロックを用いて非観血的授動術、または全身麻酔下に関節鏡を用いて関節包解離術を選択します。どちらも利点・欠点がありますが、術後3ヶ月程度で疼痛は軽快し、日常生活に支障のない可動域が獲得できます。

治療Before ↔ After

超音波ガイド下腕神経叢ブロック



関節鏡視下関節包解離術



ご予約・お問い合わせ先／一宮西病院 地域連携室

TEL : 0586-48-0022

(平日/AM8:00~PM 7:00 土曜/AM8:00~PM12:00 日・祝・年末年始は休み)